ケルトカヤ云々、按ズルニ、西浦賀分郷、小名久此里ノ屬ニ元浦賀ノ名アリ、蓋古ノ湊ニシテ、後年此地ニ移リシナランカ、正保ノ改メニハ、今ノ地則湊トナレリ、享保五年、豆州下田ノ番所ヲ此ニ移サレ、諸國ノ廻船江戸ニ入津スルモノ皆此湊ニ懸リ、番所ノ改ヲ請ク、故ニ日夜衆船輻湊ス、其大數月毎ニ三百餘艘、或ハ四百餘艘ニ至レリト云フ、又常ニ此湊ニ大小ノ船若干ヲ五大力船十一艘、小船五十艘、傳馬船百五十艘、繫置テ運漕ニ便ス、港中ニ渡船場アリ、幅百間餘西浦賀ニ達ス、

〔諸國湊附〕相模

一相州浦賀津湊、口之廣サ三町程、深サ五丈計、東請、沖の懸場、潮早き所ニ而不自由、口ニはへ有、此はへをあしか島と云、登船ニ者構なし、下り舟ニは面揖に置内に入、品川ゟ浦賀迄海上拾三里、北風眞艫、

〔横濱開港見聞誌一〕四方の波をづかにして、士農工商萬歳をゑゆくして、民のかまどは烟り高く立登り、南は長崎、北は蝦夷、唐、太、千島に至るまで、人心異る事なく、然もつよし、是を異州へも聞へありて、我日本の勢能をゑたひ來る、亞墨利加國一將ペルリといふ者の願ひに御免ありて、江府の南海中、横濱てふ所に新に港御開ありて、中央に運上所を建玉ひ、西の方に我國の商家をつらぬ、これを本町と云、東の方につゞきて異人商館を立させ玉ひ、万里の波上を越へ、積來る產物を又我國の產に交易のにぎはひ、銀錢の賣上げ、數百万の商ひ、おのづから民の幸、民のよろこびとは成ぬべし、〇下略

横濱港

〔横濱沿革誌〕抑モ安政六巳年六月、横濱ヲ開キ互市場トナセシヨリ、内外人陸續來テ開店シ、專ラ貿易ニ從事セリ、爾來今日ノ隆盛ニ赴キシヨリ、當初ノ形跡ヲ尋子ント欲スルモ、今ハ容易ク之レヲ知ル能ハザルニ至レリ、現時横濱市ハ、舊横濱村、同新田、太田屋新田、野毛浦、戸部村、吉田新田、太田村、平沼新田、石川中村、北方村、根岸村、本牧本郷村ノ拾貳ケ村ニ跨リ、猶ホ其幾分ハ郡部ニ屬セリト雖ドモ、數年ナラズシテ市内ニ編入スベキヤ必セリ、盛ナリト謂ベシ、〇中略